

学部・研究科名 生物産業学研究科  
 学部長・研究科委員長名 塩本 明弘  
 学科名・専攻名 生物生産学専攻

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 講じている <input type="checkbox"/> 一部講じている <input type="checkbox"/> 講じていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	・専門分野への学識を深め、コミュニケーション能力を増強するために特論科目を開講し、研究の立案、実施、考察、文献検索などを実施して修士論文を完成させるために特別総合実験・演習科目を開講している。	・毎年1回、11月に研究成果のポスター発表会を実施している。 ・授業では演習的要素を多くし、ディスカッションをしながら進めている。 ・外部講師を招聘する機会を設ける。 ・学会発表により外部の刺激を受ける機会を設ける	・科目ごとに授業記録を取る。 ・シラバスとガイダンスにおいて評価基準を明示する。	・毎年のポスター発表により指導教員以外の専攻の複数指導教員が修士論文の進行度を把握する。 ・専攻内の論文発表会、研究科全体での修士論文要旨のチェック、修士論文発表会、指導教員および他の指導教員による修士論文の査読	・授業評価アンケートの実施 ・授業改善計画の作成と提出 ・毎年度のシラバス作成時の科目内容の改善 ・修了時アンケートの実施と集計
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> ・学科の専門知識をベースに、修士課程で生物産業を文理融合の教育体系から学ぶことができる。	<b>【長所】</b> ・与えられた課題を調べ、提示する能力が磨かれる。	<b>【長所】</b> ・教員による一方的な評価に陥らない。 ・学生にとっては努力に見合った評価。	<b>【長所】</b> ・指導教員によるきめ細かい指導。 ・専攻内の他の指導教員による状況把握	<b>【長所】</b> ・学生の授業評価は高い。 ・各授業担当者の工夫
	<b>【特色】</b> ・雄大な自然を有するオホーツクにおいて、バイオテクノロジー、動植物生産、生態系保全を高度に学ぶことができる。	<b>【特色】</b> ・少人数きめ細かい指導	<b>【特色】</b> ・特になし	<b>【特色】</b> ・修士論文英語要旨を1つの論文につき5人の指導教員が査読し、コメントを記録。本人にフィードバックしている。	<b>【特色】</b> ・高い満足度 ・高い授業出席率
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> ・なし	<b>【問題点】</b> ・学生のフィールド調査と授業が重なることがある。	<b>【問題点】</b> ・特になし	<b>【問題点】</b> ・きめ細かい指導は、教員の負担も増加する。	<b>【問題点】</b> ・なし
	<b>【課題】</b> ・学生の学習志向を尊重しながらも多様な分野を指導し、満足度を得ること。	<b>【課題】</b>	<b>【課題】</b> ・学期ごと各教科毎の見直し	<b>【課題】</b> ・教員の負担軽減（業務集中の分散）	<b>【課題】</b> ・学期ごと各教科毎の内容見直しと更新
根拠資料名	学習の手引き、講義要項<シラバス>	成果発表会のポスター 授業記録 授業評価	授業記録 指導教授名簿	大学院修士論文発表会要旨集 修士論文	学習の手引き、講義要項<シラバス> 授業評価アンケート結果。

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input type="checkbox"/> 行っている <input checked="" type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に 対する 現状説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>定められた試験制度の適切な立案と実施</li> <li>試験日程は事前に専攻主任会議、研究科委員会に付議され承認された後に公示される。</li> <li>受験希望者は必ず指導教授（予定者）と事前に面談し、受け入れ方針や入学後の研究計画等について確認している。</li> <li>指導教授予定者を含めた複数人による学科試験問題（外国語・専門科目）を実施するとともに、指導教員全員による口述試験を行い、公正に入学者を選抜している。</li> <li>研究科で統一した合否基準を設定し、専攻での合否判定を踏まえ生物産業学研究科委員会において最終的な合否判定をしている。</li> <li>入学試験問題は公開する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>専攻主任会議において、今後、大学院入学後の修学状況、学位論文の進捗状況及び修了後の進路決定状況等を分析し、入学選抜の適切性やアドミッションポリシーを継続的に点検する必要性を確認した（今後の課題）。</li> </ul>
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> ・学生が指導を受ける指導教授が中心となって学科試験問題を作成するので、より専門的な内容の理解を問うことができる。	<b>【長所】</b> ・なし
	<b>【特色】</b> ・口述試験では様々な専門の指導教授があたるので、受験する学生の幅広い知識やコミュニケーション能力をみることができる。	<b>【特色】</b> ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> ・なし	<b>【問題点】</b> ・なし
	<b>【課題】</b> ・なし	<b>【課題】</b> ・なし
根拠資料名	大学院募集要項 大学院ホームページ	・なし

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> つなげている <input type="checkbox"/> 一部つなげている <input type="checkbox"/> つなげていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究科及び専攻ごとに編制方針を定め、これを専攻主任会議及び専攻会議等にて全構成員に周知している。</li> <li>外部には、教員募集の際に本方針を踏まえた内容を大学ホームページに掲載している。</li> <li>植物資源生産学分野と動物資源生産学分野</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学院設置基準及び学内の教員枠を踏まえ、方針に基づく教員を配置している。</li> <li>専攻内は2分野体制である。</li> <li>植物資源生産学分野と動物資源生産学分野</li> <li>指導教授は植物資源生産学分野4名、動物資源生産学分野3名である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員の採用は広く一般公募とし、大学のホームページにて募集している。</li> <li>採用にあたっては、専攻による選考試験のほか、資格審査委員会において専門性と職階による教育研究業績基準に照らし合わせた厳格な審査をしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学全体でアンケート形式による自己教育評価と学生による評価(授業・研究室)を毎年度実施し、これをフィードバックするとともに、特に改善を要する事項については、改善計画書を求めている。</li> <li>依命国外留学制度の利用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>専攻における人事計画(指導教授や指導准教授への昇格・採用等)を専攻主任が中心となって立案し、これを専攻における指導教授会議の中で確認・共有している。</li> </ul>
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li></li> </ul>	<b>【長所】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>分野における指導教授のバランスが良い。</li> </ul>	<b>【長所】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>公募による意欲的な人材の採用が可能。</li> </ul>	<b>【長所】</b> 依命国外留学に関しては、 <ul style="list-style-type: none"> <li>教員の質の向上</li> <li>国際交流の活性化</li> </ul>	<b>【長所】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>専攻内の指導教授間で共通認識を獲っている</li> </ul>
	<b>【特色】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>オホーツク地域の特色・強みを活かすことのできる業績・考えを持った教員であること。</li> </ul>	<b>【特色】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>学科の各研究室から進学した学生の修士論文作成に対応可能。</li> </ul>	<b>【特色】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>資格審査委員会により、多岐にわたる専門性に対応できる審査を実施している</li> </ul>	<b>【特色】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>1年間の海外で研鑽を積むことにより、教員のスキルアップにつながる。周囲への波及効果が期待される。</li> </ul>	<b>【特色】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>なし</li> </ul>
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>なし</li> </ul>	<b>【問題点】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>学科は植物生産分野、動物生産分野、生物資源保全分野の3分野体制である。</li> </ul>	<b>【問題点】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>なし</li> </ul>	<b>【問題点】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>組織としてバックアップが必要。</li> <li>留学者の元の所属場所の業務量増加</li> </ul>	<b>【問題点】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>特になし</li> </ul>
	<b>【課題】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>なし</li> </ul>	<b>【課題】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>H30年度から学科の名称と体制が変わることに伴い、今後は本専攻の分野変更を視野に検討を始める。</li> </ul>	<b>【課題】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>資格審査基準の定期的な見直しと、専門分野に応じた適正な基準づくり。</li> </ul>	<b>【課題】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>可能ならば1年間の臨時雇用などの対策</li> </ul>	<b>【課題】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>特になし</li> </ul>
根拠資料名	研究科及び専攻の編制方針 教員募集に係る大学ホームページ 学修の手引き 講義要項<シラバス>	大学院案内 学修の手引き 講義要項<シラバス>	資格審査委員会資料	自己教育評価のアンケート 授業・研究室アンケート	大学院案内

学部・研究科名 生物産業学研究科  
 学部長・研究科委員長名 塩本 明弘  
 学科名・専攻名 アクアバイオ学専攻

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 講じている <input type="checkbox"/> 一部講じている <input type="checkbox"/> 講じていない	<input type="checkbox"/> 行っている <input checked="" type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input type="checkbox"/> 行っている <input checked="" type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	本専攻において修得が必要な知識などを、2つの専修を設けて独自に必修科目を設定して編成している。科目の内容と順次性を考慮して単位制度の趣旨に沿った単位を設定して各学期に配当している。いわゆる座学と実験科目を適切に配置して編成している。	2年目は実験が主体となるため、実験を組み立てるために必要な、シラバス内容を十分検討した座学を1年次に配当し、学生が積極的に授業に参加できるように工夫して授業を行っている。また、研究の内容を明示して実施計画を策定するとともに、それに基づいて指導を行っている。	シラバスにしたがって到達段階を評価して、適切に単位認定している。学位認定に当たっては、責任体制及び手続きを明示して必要な試験を実施し、合格したもののみ学位を授与している。特に修士論文内容については、専攻内における発表会に加え、研究科全体での発表も行っている。	学習成果を、各科目の担当教員が適切に指標を設定して把握し、単位認定を行っている。また、専攻内発表会において専攻教員が学習成果を把握している。	教育課程及びその内容、方法の適切性について、個々の教員が学習成果の把握結果を元に点検・評価を行っている。また、その点検・評価結果に基づき、学習成果の測定の改善に取り組んでいる。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・なし	【長所】 なし	【長所】 なし	【長所】 なし	【長所】 なし
	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 なし	【問題点】 成績評価の客観性や厳格性を担保するための措置に関して明確な基準が無い。	【問題点】 なし	【問題点】 資料や情報に基づく、点検・評価が行えていない。
	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 成績評価の客観性や厳格性を担保する基準作成が必要である。	【課題】 ・なし	【課題】 資料や情報に基づく、点検・評価を実施していく必要がある。
根拠資料名	学修のてびき・講義要項<シラバス>		授業記録		

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input type="checkbox"/> 行っている <input checked="" type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	学生の受け入れ方針に基づき、学生募集方法及び入学者選抜制度適切に整備し、指導教授全員による口述試験を実施するなど、入学を希望するものへの合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施している。	学生受け入れの適切性について、専攻で受け入れた学生の学習成果を元に点検・評価を行っている。また、その点検・評価結果に基づき、学生受け入れの適切性について改善に取り組んでいる。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし
	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 資料や情報に基づく、点検・評価が行えていない。
	【課題】 ・なし	【課題】 資料や情報に基づく、点検・評価を実施していく必要がある。
根拠資料名	東京農業大学大学院募集要項 東京農業大学大学院ホームページ	

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input type="checkbox"/> つなげている <input checked="" type="checkbox"/> 一部つなげている <input type="checkbox"/> つなげていない	<input type="checkbox"/> 行っている <input checked="" type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	アクアバイオ専攻として求める専門分野に関する能力や教育に対する姿勢を、教員募集の際に大学ホームページに掲載して、応募してきた候補者から教員を選抜している。	大学院設置基準及び学内の教員枠を踏まえ、方針に基づく教員を配置している。	教員の採用は広く一般公募とし、大学のホームページにて募集している。採用にあたっては、専攻による選考試験のほか、資格審査委員会において専門性と職階による教育研究業績基準に照らし合わせた厳格な審査をしている。	大学全体でアンケート形式による自己教育評価と学生による評価（授業・研究室）を毎年度実施し、これをフィードバックするとともに、特に改善を要する事項については、改善計画書を提出している。	専攻における人事計画（指導教授や指導准教授への昇格・採用等）を専攻主任が中心となって立案し、これを専攻内で確認・共有し、昇格等が必要な場合には、学長に推薦している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし
	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・FDの組織的な活動が不十分である。	【問題点】 ・適切な根拠に基づく点検が行えていない。
	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・大学院におけるFD活動の活発化が必要。	【課題】 ・適切な根拠に基づく点検と改善を行う。
根拠資料名	教員募集に係る大学ホームページ		教員募集に係る大学ホームページ 資格審査委員会資料	自己教育評価アンケート 授業評価アンケート 修了時の研究室アンケート	

学部・研究科名 生物産業学研究科  
 学部長・研究科委員長名 塩本 明弘  
 学科名・専攻名 食品香粧学専攻

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 講じている <input type="checkbox"/> 一部講じている <input type="checkbox"/> 講じていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	・生物資源の特性と食品香粧品に関する先端知識を教授し、コミュニケーション能力を養うための特論科目を開講している。また研究の立案、実施、考察、文献検索などを実施して修士論文を完成させるために特別総合実験・演習科目を開講している。	・毎年1回（11月）、研究成果をポスター形式で発表させている。 ・講義・教員ごとにアンケートを実施することで、学生の潜在的要望と就学意欲向上のきっかけを把握するようにしている。	・科目ごとに授業記録を取ることで適切な成績評価・単位認定を行っている。 ・指導教授以外の教員による複数指導を行っている。	・少人数の講義により、学生個々の習熟度を把握するようにしている。 ・論文発表会には他の専攻の教員にも参加してもらい、指摘に答えられるか確認している。	・年に一度の中間報告会で、指導教員全員が学生の研究進行状況を把握し、指導している。 ・授業・研究室アンケートにより教育内容の適切性を点検している。 ・指導教授以外の教員による複数指導により教員間で学生の習熟度を評価。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 なし	【長所】 自分の成果を外部に発信する力を身につけることができる。	【長所】 ・学生の受講状況を把握できる。 ・その科目で教えた内容を教員全員が把握できる。	【長所】 ・個々の学生に対応した教育ができる。	【長所】 ・指導教授だけでなく、多方面からの視野で見たときの教育課程の課題が抽出できる。
	【特色】 ・食品と香粧品に関する幅広くかつ深い専門知識を身につける事ができる。	【特色】 ・他分野の研究について知る事ができる。	【特色】 ・なし	【特色】 ・第三者に研究内容を理解してもらうための訓練となる。	【特色】 ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・ポスター発表が平日の授業時間と重なり、見る事のできる学部生が限られている。	【問題点】 ・なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし
	【課題】 ・食品と香料、香粧品それぞれにおける重点教育分野の選定	【課題】 ・学生の知識の習熟度の把握	【課題】 ・次年度の講義内容の改善点の把握	【課題】 ・専門以外の関連分野に関する知識の習熟度の把握	【課題】 ・他大学の指導体制の調査
根拠資料名	学修のてびき・講義要項<シラバス>	授業・研究室アンケート	授業記録	修士論文	授業・研究室アンケート（指導に対する満足度など）

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input type="checkbox"/> 行っている <input checked="" type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受験希望者は必ず指導教授（予定者）と事前に面談し、受け入れ方針や入学後の研究計画等について確認している。</li> <li>・英語については学部講師による受験準備のための指導を内外受験者向けに行っている。</li> <li>・指導教授予定者を含めた複数人による学科試験問題（外国語・専門科目）を実施している。</li> <li>・口述試験を行い、受験者の専攻に対する理解度および入学後の適切な指導方法を指導教授全員が把握している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専攻会議において、今後、大学院入学後の修学状況、学位論文の進捗状況及び修了後の進路決定状況等を分析し、入学選抜の適切性やアドミッションポリシーを継続的に点検する必要性を確認した（今後の課題）。</li> </ul>
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> ・受験前の面談と口述試験で受験者の背景を知る事により入学後に個々の受験者の個性を活かした指導を行う事ができる。	<b>【長所】</b> ・なし
	<b>【特色】</b> ・受験準備のための英語指導は他の専攻受験者も参加可能である。	<b>【特色】</b> ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> ・なし	<b>【問題点】</b> ・なし
	<b>【課題】</b> ・産業界の動向にあわせた専門科目試験課題の作成	<b>【課題】</b> ・現状分析の手法及び点検・評価から改善までの仕組み（PDCA サイクル）を制度（委員会設置等）として構築する必要がある。
根拠資料名	東京農業大学大学院募集要項 口述試験回答用紙	・なし



3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input type="checkbox"/> つなげている <input checked="" type="checkbox"/> 一部つなげている <input type="checkbox"/> つなげていない	<input type="checkbox"/> 行っている <input checked="" type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専攻の編制方針を専攻会議で教員に周知している。</li> <li>・外部には、教員募集の際に本方針を踏まえた内容を大学ホームページに掲載している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学院設置基準及び学内の教員枠を踏まえ、方針に基づく教員を配置している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の採用は広く一般公募とし、大学のホームページおよび JREC-IN にて募集している。</li> <li>・採用にあたっては、専攻による選考試験のほか、資格審査委員会において専門性と職階による教育研究業績基準に照らし合わせた厳格な審査をしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート形式による自己教育評価を実施している（大学全体）。</li> <li>・学生による評価（授業・研究室）を毎年度実施し、これを教育にフィードバックするとともに、特に改善を要する事項については、改善計画書を作成している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人事計画（指導教授や指導准教授への昇格・採用等）を専攻主任が中心となって立案し、これを専攻会議等の中で確認・共有している。</li> </ul>
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> ・なし	<b>【長所】</b> ・なし	<b>【長所】</b> ・なし	<b>【長所】</b> ・授業および研究室アンケートにより改善すべき点を把握することができる。	<b>【長所】</b> ・なし
	<b>【特色】</b> ・オホーツクの自然資源の利用に関する高度な業績を持ち研究を実践できる教員で編制されている。	<b>【特色】</b> ・食品、香り、化粧品それぞれを専門とした教員を配置している。	<b>【特色】</b> ・資格審査委員会により、多岐にわたる専門性に対応できる審査を実施している。	<b>【特色】</b> ・なし	<b>【特色】</b> ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> ・なし	<b>【問題点】</b> ・なし	<b>【問題点】</b> ・なし	<b>【問題点】</b> ・アンケートの項目の選定が適格かどうかの判断 ・資質が向上したかどうかの客観的判断	<b>【問題点】</b> ・社会・産業界の要望に則した教育を行える人事構成となっているかどうかの客観的判断。
	<b>【課題】</b> ・なし	<b>【課題】</b> ・教員が専門以外の分野に関する知識と指導能力を持つようにすること。	<b>【課題】</b> ・資格審査基準の定期的な見直しと、専門分野に応じた適正な基準づくり。	<b>【課題】</b> ・教育効果の高い研究課題の選定	<b>【課題】</b> ・社会情勢の把握と産業界とのつながりの増強
根拠資料名	専攻の教員編制方針 大学ホームページ教員採用欄	大学院案内	資格審査委員会資料	自己教育評価のアンケート 授業・研究室アンケート	大学院案内

学部・研究科名 生物産業学研究科  
 学部長・研究科委員長名 塩本 明弘  
 学科名・専攻名 産業経営学専攻

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 講じている <input type="checkbox"/> 一部講じている <input type="checkbox"/> 講じていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	・専門分野への学識を深め、コミュニケーション能力を増強するためにフィールドワークを重視し、ヒアリングや現地調査を遂行するための方法を伝えている。	・定期的に報告会を行い、忌憚のない意見交換を行っている。	科目ごとに授業記録を取り、複数人体制による論文指導を行っている。	研究会や国内での学会への参加をさせて発表させるようにしている。	博士論文を取得するには、学術論文の報告が必要であるために、報告をすべき学会情報を提供している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> ・前期課程の専門知識をベースに、博士課程で産業経営学を文理融合の教育体系から学ぶことができる。	<b>【長所】</b> ・専門家以外にどのように自分の成果を理解してもらえるかの練習となる。 ・社会人の受入拡大と、研究活動を中断せず海外での体験や学びができる。	<b>【長所】</b> ・受講者が毎回わかるので、調査などで受講できなかった者には補講も可能となる。 ・教員がどのようなことを教えたのかの記録となり、教育効果を把握しやすい。	<b>【長所】</b> ・博士論文に関係する内容が、現実の場へ適用されるなど社会貢献の意味合いも期待できる。	<b>【長所】</b> ・現状把握ができ、標準修業年限(3年間)での学位取得につながる。
	<b>【特色】</b> ・雄大な自然を有するオホーツクにおいて、生産、加工、流通・ビジネスを高度に学ぶことができる。	<b>【特色】</b> ・大学院を修了し、社会に出た場合、多くの方に自らの考えを理解させる能力が養える。	<b>【特色】</b> ・なし	<b>【特色】</b> ・なし	<b>【特色】</b> ・研究の進捗だけでなく、学位取得後の進路や学生生活面など、多面的な学生指導が可能となる。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> ・なし	<b>【問題点】</b> ・ポスター発表は通常の授業時間帯において実施しているので、すべての学部学生や教員が参加できない。	<b>【問題点】</b> ・教員の業務負担が増加している。	<b>【問題点】</b> ・なし	<b>【問題点】</b> ・なし
	<b>【課題】</b> ・文理融合の教育成果が学生に身に付いているかの評価をどのようにするか。	<b>【課題】</b> ・より多くの学部学生と教員が参加するにはどうすればよいか。	<b>【課題】</b> ・仕組みの標準化と効率化を図りつつ、事務部による支援体制を強化する。	<b>【課題】</b> ・国内学会に参加する場合の旅費などをどのように工面するか。	<b>【課題】</b> ・専攻や指導教授だけでなく、学生教務課やキャリア課等事務部の協力が必要となる。
根拠資料名	・学修のてびき・講義要項<シラバス>	・成果発表会のポスター ・博士後期課程研究支援制度の募集案内 ・学則等の規程	・授業記録 ・指導教授名簿	・大学院事業報告 ・掲載学術論文	・院生との面談記録

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input type="checkbox"/> 行っている <input checked="" type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受験希望者は必ず指導教授（予定者）と事前に面談し、受け入れ方針や入学後の研究計画等について確認している。</li> <li>・指導教授予定者を含めた複数人による学科試験問題（外国語・専門科目）を実施するとともに、指導教員全員による口述試験を行い、公正に入学者を選抜している。</li> <li>・研究科で統一した合否基準を設定し、専攻での合否判定を踏まえ生物産業学研究科委員会において最終的な合否を判定している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専攻主任会議において、今後、大学院入学後の修学状況、学位論文の進捗状況及び修了後の進路決定状況等を分析し、入学選抜の適切性やアドミッション・ポリシーを継続的に点検する必要性を確認した（今後の課題）。</li> </ul>
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> ・学生が指導を受ける指導教授が中心となって学科試験問題を作成するので、より専門的な内容の理解を問うことができる。	<b>【長所】</b> なし
	<b>【特色】</b> ・口述試験では様々な専門の指導教授があたるので、受験する学生の幅広い知識やコミュニケーション能力をみることができる。	<b>【特色】</b> なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> なし	<b>【問題点】</b> なし
	<b>【課題】</b> ・試験を国内の複数個所で受けることができる仕組みの構築	<b>【課題】</b> ・現状分析の手法及び点検・評価から改善までの仕組み（PDCA サイクル）を制度（委員会設置等）として構築する必要がある。
根拠資料名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京農業大学大学院募集要項</li> <li>・東京農業大学大学院ホームページ</li> </ul>	・なし

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input type="checkbox"/> つなげている <input checked="" type="checkbox"/> 一部つなげている <input type="checkbox"/> つなげていない	<input type="checkbox"/> 行っている <input checked="" type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	・研究科及び専攻ごとに編制方針を定め、これを専攻主任会議及び専攻会議等にて全構成員に周知している。 ・外部には、教員募集の際に本方針を踏まえた内容を大学ホームページに掲出している。	・大学院設置基準及び学内の教員枠を踏まえ、方針に基づく教員を配置している。	・教員の採用は広く一般公募とし、大学のホームページにて募集している。 ・採用にあたっては、専攻による選考試験のほか、資格審査委員会において専門性と職階による教育研究業績基準に照らし合わせた厳格な審査をしている。	・大学全体でアンケート形式による自己教育評価と学生による評価(授業・研究室)を毎年度実施し、これをフィードバックするとともに、特に改善を要する事項については、改善計画書を求めている。	・専攻における人事計画(指導教授や指導准教授への昇格・採用等)を専攻主任が中心となって立案し、これを専攻会議等の中で確認・共有している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> ・なし	<b>【長所】</b> ・なし	<b>【長所】</b> ・なし	<b>【長所】</b> ・改善すべき目標を具体的に把握することができる。	<b>【長所】</b> ・なし
	<b>【特色】</b> ・オホーツク地域の特色・強みを活かすことのできる業績・考えを持った教員であること。	<b>【特色】</b> ・博士前期課程は4専攻に分かれているが、博士後期課程は1つに統合されており、幅広い課題に対応可能である。	<b>【特色】</b> ・資格審査委員会により、多岐にわたる専門性に対応できる審査を実施している。	<b>【特色】</b> ・なし	<b>【特色】</b> ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> ・なし	<b>【問題点】</b> ・なし	<b>【問題点】</b> ・なし	<b>【問題点】</b> ・教員個人の目標設定にはなっているが、組織としての目標にどうつなげるか。	<b>【問題点】</b> ・人事構成は専攻に依存しており、組織的な確認が不十分である。
	<b>【課題】</b> ・なし	<b>【課題】</b> ・授業や指導に携わる全教員が指導教授や指導准教授となること。	<b>【課題】</b> ・資格審査基準の定期的な見直しと、専門分野に応じた適正な基準づくり。	<b>【課題】</b> ・大学院FD委員会による組織的な教員組織の改善に向けた仕組みと、教員個人の改善計画をリンクさせる。	<b>【課題】</b> ・専攻、研究科、事務部が連携したチェック体制の構築。
根拠資料名	・研究科及び専攻の編制方針 ・教員募集に係る大学ホームページ	・大学院案内	・資格審査委員会資料	・自己教育評価のアンケート ・授業・研究室アンケート	・大学院案内

学部・研究科名 生物産業学研究科  
 学部長・研究科委員長名 塩本 明弘  
 学科名・専攻名 生物産業学専攻

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 講じている <input type="checkbox"/> 一部講じている <input type="checkbox"/> 講じていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	・専門分野への学識を深め、コミュニケーション能力を増強するために特論科目を開講し、研究の立案、実施、考察、文献検索などを実施して博士論文を完成させるために特別総合実験・演習科目を開講している。	・毎年1回、11月に研究成果のポスター発表会を実施している。 ・学内に博士後期課程の学生を対象にした競争的資金制度を設けている。 ・秋入学及び長期履修制度を導入している。	・科目ごとに授業記録を取ることににより適切な成績評価・単位認定を行うとともに、複数人体制による論文指導を行っている。	・試験等による評価とあわせ、教員の指導に従い、一定レベルの研究成果を得て国内外の学会で発表し、学術誌に論文として掲載させること等により評価している。	・博士論文を取得するには、学術論文が2報必要である。このため、博士後期課程の学生には専攻の主任を交えて、論文の掲載状況等について面談・指導を行い、面談シートに記録している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> ・前期課程の専門知識をベースに、博士課程で生物産業を文理融合の教育体系から学ぶことができる。	<b>【長所】</b> ・専門家以外にどのように自分の成果を理解してもらえるかの練習となる。 ・研究計画の立案、研究資金の獲得の練習となる。 ・社会人の受入拡大と、研究活動を中断せず海外での体験や学びができる。	<b>【長所】</b> ・受講者が毎回わかるので、調査などで受講できなかった者には補講も可能となる。 ・教員がどのようなことを教えたのかの記録となり、教育効果を把握しやすい。	<b>【長所】</b> ・国際学会での報告や国際誌への論文の掲載がみられる。 ・学会において受賞するなど、学生の意欲向上につながる。	<b>【長所】</b> ・現状把握ができ、標準修業年限(3年間)での学位取得につながる。 ・博士論文に遅延が生じた場合の原因解明とその対応に役立つ。
	<b>【特色】</b> ・雄大な自然を有するオホーツクにおいて、生産、加工、流通・ビジネスを高度に学ぶことができる。	<b>【特色】</b> ・大学院を修了し、社会に出た場合、多くの方に自らの考えを理解させる能力が養える。	<b>【特色】</b> ・なし	<b>【特色】</b> ・なし	<b>【特色】</b> ・研究の進捗だけでなく、学位取得後の進路や学生生活面など、多面的な学生指導が可能となる。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> ・なし	<b>【問題点】</b> ・ポスター発表は通常の授業時間帯において実施しているので、すべての学部学生や教員が参加できない。	<b>【問題点】</b> ・教員の業務負担が増加している。	<b>【問題点】</b> ・なし	<b>【問題点】</b> ・なし
	<b>【課題】</b> ・文理融合の教育成果が学生に身に付いているかの評価をどのようにするか。	<b>【課題】</b> ・より多くの学部学生と教員が参加するにはどうすればよいか。	<b>【課題】</b> ・仕組みの標準化と効率化を図りつつ、事務部による支援体制を強化する。	<b>【課題】</b> ・国際学会などに参加する場合の旅費などをどのように工面するか。	<b>【課題】</b> ・専攻や指導教授だけでなく、学生教務課やキャリア課等事務部の協力が必要となる。
根拠資料名	・学修のてびき・講義要項<シラバス>	・成果発表会のポスター ・博士後期課程研究支援制度の募集案内、学則等の規程	・授業記録 ・指導教授名簿	・大学院事業報告 ・掲載学術論文	・院生との面談記録

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input type="checkbox"/> 行っている <input checked="" type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受験希望者は必ず指導教授（予定者）と事前に面談し、受け入れ方針や入学後の研究計画等について確認している。</li> <li>・指導教授予定者を含めた複数人による学科試験問題（外国語・専門科目）を実施するとともに、指導教員全員による口述試験を行い、校正に入学者を選抜している。</li> <li>・研究科で統一した合否基準を設定し、専攻での合否判定を踏まえ生物産業学研究科委員会において最終的な合否を判定している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専攻主任会議において、今後、大学院入学後の修学状況、学位論文の進捗状況及び修了後の進路決定状況等を分析し、入学選抜の適切性やアドミッションポリシーを継続的に点検する必要性を確認した（今後の課題）。</li> </ul>
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> ・学生が指導を受ける指導教授が中心となって学科試験問題を作成するので、より専門的な内容の理解を問うことができる。	<b>【長所】</b> なし
	<b>【特色】</b> ・口述試験では様々な専門の指導教授があたるので、受験する学生の幅広い知識やコミュニケーション能力をみることができる。	<b>【特色】</b> なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> ・なし	<b>【問題点】</b> なし
	<b>【課題】</b> ・外国における現地入試の実施等の対応。	<b>【課題】</b> ・現状分析の手法及び点検・評価から改善までの仕組み（PDCA サイクル）を制度（委員会設置等）として構築する必要がある。
根拠資料名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京農業大学大学院募集要項</li> <li>・東京農業大学大学院ホームページ</li> </ul>	・なし

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input type="checkbox"/> つなげている <input checked="" type="checkbox"/> 一部つなげている <input type="checkbox"/> つなげていない	<input type="checkbox"/> 行っている <input checked="" type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	・研究科及び専攻ごとに編制方針を定め、これを専攻主任会議及び専攻会議等にて全構成員に周知している。 ・外部には、教員募集の際に本方針を踏まえた内容を大学ホームページに掲出している。	・大学院設置基準及び学内の教員枠を踏まえ、方針に基づく教員を配置している。	・教員の採用は広く一般公募とし、大学のホームページにて募集している。 ・採用にあたっては、専攻による面接のほか、資格審査委員会において専門性と職階による教育研究業績基準に照らし合わせた厳格な審査をしている。	・大学全体でアンケート形式による自己教育評価と学生による評価(授業・研究室)を毎年度実施し、これをフィードバックするとともに、特に改善を要する事項については、改善計画書を求めている。	・専攻における人事計画(指導教授や指導准教授への昇格・採用等)を専攻主任が中心となって立案し、これを専攻会議等の中で確認・共有している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> ・なし	<b>【長所】</b> ・なし	<b>【長所】</b> ・なし	<b>【長所】</b> ・改善すべき目標を具体的に把握することができる。	<b>【長所】</b> ・なし
	<b>【特色】</b> ・オホーツク地域の特色・強みを活かすことのできる業績・考えを持った教員であること。	<b>【特色】</b> ・博士前期課程は4専攻に分かれているが、博士後期課程は1つに統合されており、幅広い課題に対応可能である。	<b>【特色】</b> ・資格審査委員会により、多岐にわたる専門性に対応できる審査を実施している。	<b>【特色】</b> ・なし	<b>【特色】</b> ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> ・なし	<b>【問題点】</b> ・なし	<b>【問題点】</b> ・なし	<b>【問題点】</b> ・教員個人の目標設定にはなっているが、組織としての目標にどうつなげるか。	<b>【問題点】</b> ・人事構成は専攻に依存しており、組織的な確認が不十分である。
	<b>【課題】</b> ・なし	<b>【課題】</b> ・授業や指導に携わる全教員が指導教授や指導准教授となること。	<b>【課題】</b> ・資格審査基準の定期的な見直しと、専門分野に応じた適正な基準づくり。	<b>【課題】</b> ・大学院FD委員会による組織的な教員組織の改善に向けた仕組みと、教員個人の改善計画をリンクさせる。	<b>【課題】</b> ・専攻、研究科、事務部が連携したチェック体制の構築。
根拠資料名	・研究科及び専攻の編制方針 ・教員募集に係る大学ホームページ	・大学院案内	・資格審査委員会資料	・自己教育評価のアンケート ・授業・研究室アンケート	・大学院案内

学部・研究科名 生物産業学研究科  
 学部長・研究科委員長名 塩本 明弘  
 学科名・専攻名 生物生産学専攻

1. 教育に関する総合的事項

①	
目 標	<p>■現行カリキュラムの点検・改正</p> <p>基礎学科の改組（H30・31）を踏まえ、現行カリキュラムの問題点等を抽出・把握し、ディプロマポリシー（見直しも想定して）に掲げる人材を輩出するという視点により、北方圏の動植物資源の利用と生態系保全、それらを活用するバイオテクノロジー研究を重視した、学修効率の良い魅力のある大学院専攻カリキュラムを策定、平成32年度の学則改正を目指す。</p>
実行サイクル	<p><u>3</u>年サイクル（平成29年～平成31年）</p>
実施 スケジュール	<p>&lt;平成29年度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学院FD委員会による課題設定、スケジュール等調整（7月）</li> <li>・研究科共通科目、教職課程再課程認定への影響等の確認（～9月）</li> <li>・基礎学科の教育プログラムの把握（12月）</li> <li>・現行カリキュラムの点検→問題点等抽出（～3月）</li> </ul>
目標達成を測定する指標	<p>&lt;平成29年度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラム改正に向けたロードマップ作成</li> <li>・現行カリキュラムの問題点等のリストアップ</li> </ul>
自己評価 (☑を記入)	<p><input type="checkbox"/> 達成した</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した</p> <p><input type="checkbox"/> 達成できず要継続</p> <p><input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更</p>
目標に対する 現状説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各授業担当者毎に、授業評価に基づいて授業内容の見直しを行った。</li> <li>・専攻内において大学院の現行カリキュラムのなかで見直すべき点を整理した。学術論文作成法（一）（二）について、（一）と（二）の両方とも必要なのか、指導内容について検討された。</li> <li>・本専攻の基礎学科は、H30年度から「北方圏農学科」に名称変更し、分野は「植物生産」「動物生産」「フィールド生物資源保全」の三分野体制となった。本専攻においては、現行では二分野体制「植物資源生産学」「動物資源生産学」である。平成32年度の学則改正にあわせて現行二分野体制を三分野にするかどうか検討中である。</li> </ul>
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<p>【長所】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学術論文作成法（一）（二）：和文（一）と英文（二）に内容をわけている。研究室における論文指導を行っていることを考えると、講義科目としては（二）のみの開講で十分である。</li> <li>・二分野体制：フィールド系の学生とそれ以外の学生が、全ての分野を網羅して学習する体制である。</li> </ul> <p>【特色】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学術論文作成法（一）（二）：履修学生が3名程度と少ないため、これまでは履修学生の到達度に応じて、担当者が内容を調整していた。</li> <li>・二分野体制：生物生産学専攻として生態系保全を含めた生物生産について総合的な知識を得ることが出来る。</li> </ul>
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<p>【問題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学術論文作成法（一）（二）：文章作成テクニックの授業を前期と後期で開講する必要性が薄い。むしろ、修士論文に即した研究室における論文指導に時間をあて、講義としての開講は不要。</li> <li>・二分野体制：基礎学科の体制を意識してフィールド系を明確に志向する学生が進学した場合に十分な履修内容を提供できるか否か。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学術論文作成法（一）（二）：平成32年度の学則改正を目指し、統合し一科目開講とした場合の学習効果を検討する。</li> <li>・二分野体制：三分野体制にする際は分野の柱科目（選択必修）を2科目新設することになる。生態系の指導教授・准教授は2名であり負担増が予想される。フィールド系の選択科目を充実する方法もある。</li> </ul>
根拠資料名	<p>大学院シラバス</p>



2. 研究に関する総合的事項

①	
目 標	<p>■重点的研究領域の強化</p> <p>専攻の特色や優位性を強化するため「研究室・分野横断型のプロジェクト研究」を設定し、大学院指導教員を主体とした研究組織・研究計画を策定するとともに、総合研究所の研究プロジェクト（学内）または公的・民間等の競争的研究資金（学外）へ応募、採択を目指す。</p>
実行サイクル	<p>3 年サイクル（平成 29 年～平成 31 年）</p>
実施 スケジュール	<p>&lt;平成 29 年度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専攻の研究分野における強み・弱み等の把握（～8月）</li> <li>・重点的領域研究のテーマ設定（～10月）</li> <li>・学内外の H30 公募型研究プロジェクト等のリサーチ、申請等準備（～2月）</li> </ul>
目標達成を測 定する指標	<p>&lt;平成 29 年度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専攻の研究分野における現状分析結果</li> <li>・プロジェクト参画教員・大学院生数</li> <li>・学内外の公募型研究プロジェクト応募に向けたロードマップ作成</li> </ul>
自己評価 (☑を記入)	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> 達成した</li> <li><input type="checkbox"/> 一部達成した</li> <li><input type="checkbox"/> 達成できず要継続</li> <li><input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更</li> </ul>
目標に 対する 現状説明	<p>・研究室横断型の学内プロジェクト研究が 3 課題進行中であり新規の応募は無かった。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 北海道自生の塩生植物アッケシソウの保全とその耐塩性遺伝子の利用（大学戦略研究プロジェクト、代表：中村、期間：H27～H29 年度 3 年間）</li> <li>2. 先端技術を活用した新規動物資源エミューの迅速な家畜化と高能力化（大学戦略研究プロジェクト、代表：和田、期間：H28～H30 年度 3 年間）</li> <li>3. NDVI 値による生育診断技術の開発（農業 ICT プロジェクト、代表：伊藤、期間 H29 年度 1 年間）</li> </ol>
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<p>【長所】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究室・分野横断型の研究により、専攻を代表する研究となっている。大学院研究発表会（11月）においても、課題1と課題2を担当する大学院生の研究が受賞対象となった。（課題1：オホーツク賞、椎橋裕喜「ウバラナイ群生地におけるアッケシソウ黒色化の原因菌の探索」）（課題2：最優秀賞、 興石雄一「エミューにおける新規遺伝マーカーの開発」）</li> </ul> <p>【特色】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究室横断型の研究であるため、複数研究室に波及効果がある。</li> </ul>
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<p>【問題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度以降の競争的研究資金応募</li> </ul>
根拠資料名	<p>大学院研究科委員会議事録・資料</p>

3. その他に関する総合的事項

①	
目 標	<p>■優秀かつ多様な学生確保に向けた取り組み</p> <p>専攻のアドミッションポリシーに基づき、意欲的な人材の確保（定員充足）を目的とし、特に基礎学科からの進学率向上を目指して研究科で実施している合同入試説明会・相談会等に加え、専攻独自の取り組みとして以下の活動を実施し、学部と大学院の交流を活発化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアデザインの一環として基礎学科1年生への大学院説明会</li> <li>・外部講師を招聘した先端的セミナーの開催を企画し、広く聴講を呼びかけ、アカデミックな環境を醸成する。</li> <li>・基礎学科1年生の研究室訪問による交流。</li> </ul>
実行サイクル	2年サイクル（平成29年～平成30年）
実施スケジュール	<p>&lt;平成29年度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主事WGを主体とした課題設定、スケジュール等調整（～7月）</li> <li>・これまでの広報・募集活動（入試説明会、進学相談会、フレッシュマンセミナー）の検証（～10月）</li> <li>・次年度広報・募集活動計画の立案（～3月）</li> </ul>
目標達成を測定する指標	<p>&lt;平成29年度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現行実施の広報関係企画の評価結果</li> <li>・次年度広報・募集活動計画策定</li> <li>・平成31年度入試志願者状況（人数、レベル、社会人数等）</li> </ul>
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基礎学科1年生への大学院説明会：3回実施した。第1回（6月5日、大学院一期入試説明会として）、第2回（11月1日、大学院進学相談会として）、第3回（10月31日、生物生産学科1年生フレッシュマンセミナーにおいて「大学院を知ろう」小栗、平山、大久保）</li> <li>2. 外部講師を招聘した先端的セミナーの企画開催：2回行った。第一回（7月27日）講師：山本紘輔氏（東京農業大学生命科学部）「博士課程修了後の研究サバイバル」、第二回（2月23日）講師：平林 淳氏（産業総合技術研究所）「へパイン系キチン結合性レクチンのFACによる糖特異性解析とグライコサイエンスの未来」</li> <li>3. 基礎学科1年生の研究室訪問による交流：1年生全員を対象として、基礎学科5研究室に人数配分し、各研究室において実験またはセミナーに参加した。例えば、植物バイテク研究室では11月15日と22日の2日日程において1年生16人を対象に植物の形質転換実験を行った。</li> </ol>
現状説明を踏まえた長所・特色	<p>【長所】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎学科1年生に大学院の存在を意識させることができた。研究室との交流によりさらに具体的に考えることを促した。学際的雰囲気醸成に寄与した。フレッシュマンセミナーでは、本専攻の内容だけでなく、文科省の統計から全国的な農学系の大学院進学率と就職率も紹介し、選択肢の一つとして提示した。また、単なる紹介に終始するのではなく、キャリアパスとして「研究」を捉えられるように教員と大学院生から「考え方」を話して貰った。</li> </ul> <p>【特色】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・到達目標を具体化することで、大学院への進学</li> </ul>
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	<p>【問題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・取り組みの継続</li> </ul>
根拠資料名	大学院研究科委員会議事録または資料等、生物生産学科フレッシュマンセミナー予定表

学部・研究科名 生物産業学研究科  
 学部長・研究科委員長名 塩本 明弘  
 学科名・専攻名 アクアバイオ学専攻

1. 教育に関する総合的事項

①	
目 標	<p>■現行カリキュラムの点検・改正</p> <p>基礎学科の改組（H30・31）を踏まえ、現行カリキュラムの問題点等を抽出・把握し、ディプロマポリシー（見直しも想定して）に掲げる人材を輩出するという視点により、水圏産業に関わる生物学的・生態学的・環境学的特性に関する専門的知識の修得を重視した特色ある大学院専攻カリキュラムを策定、平成32年度の学則改正を目指す。</p>
実行サイクル	_3_年サイクル（平成29年～平成31年）
実施 スケジュール	<p>&lt;平成29年度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学院FD委員会による課題設定、スケジュール等調整（7月）</li> <li>・研究科共通科目、教職課程再課程認定への影響等の確認（～9月）</li> <li>・基礎学科の教育プログラムの把握（12月）</li> <li>・現行カリキュラムの点検→問題点等抽出（～3月）</li> </ul>
目標達成を測 定する指標	<p>&lt;平成29年度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラム改正に向けたロードマップ作成</li> <li>・現行カリキュラムの問題点等のリストアップ</li> </ul>
自己評価 (☑を記入)	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 達成した</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した</li> <li><input type="checkbox"/> 達成できず要継続</li> <li><input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更</li> </ul>
目標に 対する 現状説明	<p>大学院FD委員会による課題設定ができていない。</p> <p>研究科共通科目、教職課程再課程認定への影響等を確認した。</p> <p>基礎学科の教育プログラムを把握した。</p> <p>現行カリキュラムを点検し、問題点等を抽出した。</p>
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<p>【長所】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なし</li> </ul> <p>【特色】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なし</li> </ul>
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<p>【問題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学院FD委員会による課題設定を行う必要がある。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学院FD委員会による課題設定を行って改善する。</li> </ul>
根拠資料名	

2. 研究に関する総合的事項

①	
目 標	<p>■重点的研究領域の強化</p> <p>専攻の特色や優位性を強化するための重点的研究領域を「オホーツク水域の漁業生産の持続的発展のための、生物学的・生態学的・環境学的アプローチ」に設定し、大学院指導教員を主体とした研究組織・研究計画を策定するとともに、総合研究所の研究プロジェクト（学内）または公的・民間等の競争的研究資金（学外）へ応募、採択を目指す。</p>
実行サイクル	<p>3年サイクル（平成29年～平成31年）</p>
実施スケジュール	<p>&lt;平成29年度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専攻の研究分野における強み・弱み等の把握（～8月）</li> <li>・重点的領域研究のテーマ設定（～10月）</li> <li>・学内外のH30公募型研究プロジェクト等のリサーチ、申請等準備（～2月）</li> </ul>
目標達成を測定する指標	<p>&lt;平成29年度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専攻の研究分野における現状分析結果</li> <li>・プロジェクト参画教員・大学院生数</li> <li>・学内外の公募型研究プロジェクト応募に向けたロードマップ作成</li> </ul>
自己評価 (☑を記入)	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 達成した</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した</li> <li><input type="checkbox"/> 達成できず要継続</li> <li><input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更</li> </ul>
目標に対する現状説明	<p>専攻の研究分野における強み・弱み等を把握した。</p> <p>重点的領域研究のテーマ設定を行ったものの、研究組織の設定ができていない。</p> <p>学内外のH30公募型研究プロジェクト等のリサーチを実施したが、研究組織の設定ができていないため、応募に向けたロードマップ作成ができていない。</p>
現状説明を踏まえた長所・特色	<p>【長所】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なし</li> </ul> <p>【特色】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なし</li> </ul>
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	<p>【問題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重点的領域研究のテーマに基づく研究組織を設定する必要がある。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重点的領域研究のテーマに基づく研究組織を設定し、応募に向けたロードマップを作成する。</li> </ul>
根拠資料名	

3. その他に関する総合的事項

①	
目 標	<p>■優秀かつ多様な学生確保に向けた取り組み</p> <p>専攻のアドミッションポリシーに基づき、優秀な学部生および社会人等の多様な人材を確保して定員充足するために、研究科で実施している合同入試説明会・相談会等に加え、専攻独自の取り組みとして以下の広報・募集活動を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育・研究室活動において機会を積極的に捉え、大学院入学への啓発を行うとともに、学会発表やHPなどにより、本専攻の教員および大学院生が実施している研究の魅力の発信を行う。</li> </ul>
実行サイクル	2年サイクル（平成29年～平成30年）
実施 スケジュール	<p>&lt;平成29年度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主事WGを主体とした課題設定、スケジュール等調整（～7月）</li> <li>・これまでの広報・募集活動（入試説明会、進学相談会、フレッシュマンセミナー）の検証（～10月）</li> <li>・次年度広報・募集活動計画の立案（～3月）</li> </ul>
目標達成を測 定する指標	<p>&lt;平成29年度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現行実施の広報関係企画の評価結果</li> <li>・次年度広報・募集活動計画策定</li> <li>・平成31年度入試志願者状況（人数、レベル、社会人数等）</li> </ul>
自己評価 (☑を記入)	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 達成した</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した</li> <li><input type="checkbox"/> 達成できず要継続</li> <li><input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更</li> </ul>
目標に 対する 現状説明	<p>優秀かつ多様な学生確保に向けた課題設定やスケジュール調整等ができていない。</p> <p>指導教授を始め学科教員が、教育・研究室活動において機会を積極的に捉え、大学院入学への啓発を行っている。</p> <p>機会を積極的に捉え、学会発表やHPなどにより、本専攻の教員および大学院生が実施している研究の魅力を発信した。</p> <p>次年度の広報・募集活動計画について検討中である。</p>
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<p>【長所】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なし</li> </ul> <p>【特色】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なし</li> </ul>
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<p>【問題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・さらなる優秀かつ多様な学生確保に向けた方策の検討ができていない。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな学生確保に向けた方策を策定するためのWGを立ち上げ、検討していく。</li> </ul>
根拠資料名	アクアバイオ学科ホームページ

学部・研究科名 生物産業学研究科  
 学部長・研究科委員長名 塩本 明弘  
 学科名・専攻名 食品香粧学専攻

1. 教育に関する総合的事項

①	
目 標	<p>■現行カリキュラムの点検・改正</p> <p>基礎学科の改組（H30・31）を踏まえ、現行カリキュラムの問題点等を抽出・把握し、ディプロマポリシー（見直しも想定して）に掲げる人材を輩出するという視点により、食品や香粧品の加工・機能性・安全性に関する高度な研究と教育を重視した特色ある大学院専攻カリキュラムを策定、平成32年度の学則改正を目指す。</p>
実行サイクル	3年サイクル（平成29年～平成31年）
実施 スケジュール	<p>&lt;平成29年度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学院FD委員会による課題設定、スケジュール等調整（7月）</li> <li>・研究科共通科目、教職課程再課程認定への影響等の確認（～9月）</li> <li>・基礎学科の教育プログラムの把握（12月）</li> <li>・現行カリキュラムの点検→問題点等抽出（～3月）</li> </ul>
目標達成を測 定する指標	<p>&lt;平成29年度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラム改正に向けたロードマップ作成</li> <li>・現行カリキュラムの問題点等のリストアップ</li> </ul>
自己評価 (☑を記入)	<p><input type="checkbox"/> 達成した</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した</p> <p><input type="checkbox"/> 達成できず要継続</p> <p><input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更</p>
目標に 対する 現状説明	<p>H30年度に、当専攻の教育研究の基礎となる食品香粧学科に化粧品の実験室が開設される予定である。そこで本年度は、化粧品を専門とする教員を採用し、学部生に対して化粧品の講義と実習を実施してもらった。このことにより、食・香り・化粧品それぞれを専門とする教員が学部生の就学状況を把握し、大学院における効果的な教育のためにはどのようなカリキュラムが望ましいかを検討する素地が整った。現在は個々の教員が新カリキュラム編成にむけての課題を抽出している段階である。</p>
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<p>【長所】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食品・香料・化粧品に関する幅広い専門知識を習得することができる。</li> </ul> <p>【特色】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道オホーツクの生物資源の様々な利用価値を知る事ができる。</li> </ul>
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<p>【問題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・習得すべき専門知識が広範囲にわたるため、大学院生の研究に従事する時間が圧迫されないようなカリキュラム編成が要求される。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食品・化粧品を扱う産業界の要求を満たし、かつ学習効果の高いカリキュラム体系の作成</li> </ul>
根拠資料名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成31年度カリキュラム表（作成中）。</li> </ul>

## 2. 研究に関する総合的事項

①	
目 標	<p>■重点的研究領域の強化</p> <p>専攻の特色や優位性を強化するための重点的研究領域として、美と健康、QOLの向上に関連する食品、化粧品機能性および製造加工の研究テーマを大学院指導教員を主体として策定する。総合研究所の研究プロジェクト（学内）または公的・民間等の競争的研究資金（学外）への応募、採択を目指すとともに、学会発表や学術論文等を通して、最新の研究成果を国内外に発信する。</p>
実行サイクル	3年サイクル（平成29年～平成31年）
実施スケジュール	<p>&lt;平成29年度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専攻の研究分野の特色の把握と重点的領域研究のテーマ設定（～10月）</li> <li>・学内外のH30公募型研究プロジェクト等のリサーチ、申請準備および今年度の公募型研究資金の申請（～2月）</li> <li>・研究の実施と学会発表</li> </ul>
目標達成を測定する指標	<p>&lt;平成29年度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専攻の研究の現状分析と重点領域の洗い出し</li> <li>・重点領域研究への参画教員・大学院生数</li> <li>・学内外の公募型研究プロジェクトへの応募、学会発表数</li> </ul>
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	<p>当専攻の教育研究の基礎となる食品化粧品学科では化粧品の教育研究を拡充していく方針であり、当専攻においてもどのような研究を重点的に推進するかを議論している。オホーツクの生物資源を活かした研究を推進することは共通認識となっているが、専攻としての重点をおくべき具体的な研究テーマを検討中である。</p> <p>学内の公募型プロジェクトには計2件、教員7名、大学院生4名が参画した。学外の公募型研究への応募は7件。</p> <p>化粧品・香料関係の研究論文発表が増えており集計中。学会発表数について国内17件、国外9件。</p>
現状説明を踏まえた長所・特色	<p>【長所】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他の大学では少ない化粧関係の研究発表（論文・学会発表）を実施できた。</li> </ul> <p>【特色】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道オホーツクの生物資源を利用した研究が中心である。</li> </ul>
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	<p>【問題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究成果をどの学会を中心に発表するべきか、専攻として絞りきれていない。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会、産業界に対して食・香り・化粧を研究している専攻であるというアピールをするための手法を検討する必要がある。</li> </ul>
根拠資料名	H29年度大学院事業概要（作成中）

3. その他に関する総合的事項

①	
目 標	<p>■優秀かつ多様な学生確保に向けた取り組み</p> <p>専攻のアドミッションポリシーに基づき、優秀な学部生及び社会人や外国人等多様な人材を確保（定員充足）するために、研究科で実施している合同入試説明会・相談会等に加え、専攻独自の取り組みとして以下の広報・募集活動を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専攻（学科を含む）や各研究室のHP等を通じて、研究内容や業績を国内外に向けて積極的に発信する</li> <li>・講義および研究室活動を通じて大学院の重要性を学部生に周知する</li> </ul>
実行サイクル	2年サイクル（平成29年～平成30年）
実施スケジュール	<p>&lt;平成29年度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主事WGを主体とした課題設定、スケジュール等調整（～7月）</li> <li>・これまでの広報・募集活動（入試説明会、進学相談会、フレッシュマンセミナー）の検証（～10月）</li> <li>・次年度広報・募集活動計画の立案（～3月）</li> </ul>
目標達成を測定する指標	<p>&lt;平成29年度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページの大学院関連情報（院生の学会・論文発表）の掲載</li> <li>・次年度広報・募集活動計画策定</li> <li>・平成31年度入試志願者状況（人数、レベル、社会人数等）</li> </ul>
自己評価 (☑を記入)	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> 達成した</li> <li><input type="checkbox"/> 一部達成した</li> <li><input type="checkbox"/> 達成できず要継続</li> <li><input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更</li> </ul>
目標に対する現状説明	<p>学科への入学時から、学部生およびその父兄に対して、進路として就職の他に大学院もあることを随時説明している（入学式やガイダンス、フレッシュマンセミナーなど）。また、学科ホームページに大学院の中間発表の様子などを掲載し、研究室単位でも進学の特長を説明するなど、専攻および教員が地道に学生確保活動をしている。</p> <p>大学院入試受験希望者には、英語のスクールを開講して受験対策も行っている。</p> <p>本年度は、一次試験、二次試験ともに受験者および入学者は多かったことから、大学院への興味が浸透していると考えられる。</p>
現状説明を踏まえた長所・特色	<p>【長所】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語が得意でない学生にもスクールを開いて進学をサポートをしている。</li> </ul> <p>【特色】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なし</li> </ul>
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	<p>【問題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究分野が増えた事から（化粧関連）、入試科目をみなおす必要がある。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は外部からの入学者が1名いたが（社会人）、これを増やしてゆくことが望まれる。</li> </ul>
根拠資料名	入学者名簿



学部・研究科名 生物産業学部  
 学部長・研究科委員長名 塩本 明弘  
 学科名・専攻名 産業経営学専攻

1. 教育に関する総合的事項

①	
目 標	<p>■教育カリキュラムの改正</p> <p>平成31年度の学部方針に基づく生態系循環エコアグリフードシステムを基軸とした教育カリキュラムへの改正に向けて、学部共通の学科横断的体験型プログラム等を踏まえ、その中で、環境共生と経営の統合と自然資源の経営を展望した総合的な学びに重点を置いた学科の特色・専門性をより活かせる学科専門カリキュラムを策定する。</p>
実行サイクル	2年サイクル（平成29年～平成30年）
実施 スケジュール	<p>&lt;平成29年度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・WGによる課題設定、スケジュール等調整（通年）</li> <li>・教学検討委員会の方向性、教職課程再課程認定への影響等、前提条件の整理及び共有（～8月）</li> <li>・WG学科委員を中心に学科専門カリキュラムの検討（通年）</li> </ul>
目標達成を測定する指標	<p>&lt;平成29年度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学科専門カリキュラムの策定</li> <li>・学則改正案（カリキュラム）の作成</li> </ul>
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する 現状説明	環境共生を配慮した環境ビジネスの在り方、地域活性化の視点に基づいた現地調査に基づく実学的な視点での教育カリキュラム体制を実施した。さらに大学院生間の情報共有を密に展開した。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<p>【長所】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人の経験を共有することができる。</li> </ul> <p>【特色】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現場体験から問題意識の醸成と学習の動機付け、意欲の向上が図れる。</li> </ul>
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<p>【問題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オホーツク地域の特色・強み（同系他大学から見た優位性）を活かした専門科目を設定することで地域の活性化に資することが期待される。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・論文を作成した経験を活かすことで、社会人であれば現状の体系化を図れるようにすることと、就職へ生かすことができる仕組みの構築が課題である。</li> </ul>
根拠資料名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成31年度カリキュラム表（作成中）。</li> </ul>

2. 研究に関する総合的事項

①	
目 標	<p>■連携協定や共同研究等を活用した研究プロジェクトの実施</p> <p>学科の専門性を活かした六次産業化や地域活性化に資する連携研究プロジェクトを関連企業あるいは研究機関と企画・実施するとともに、この研究成果を地域・社会等に広く還元する。</p>
実行サイクル	3年サイクル（平成29年～平成31年）
実施スケジュール	<p>&lt;平成29年度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的取組内容の検討、参画教員選定（必要に応じて）</li> <li>・連携先機関への打診（必要に応じて）</li> <li>・実施に向けた連携先機関とのスケジュール調整（～3月）</li> </ul>
目標達成を測定する指標	<p>&lt;平成29年度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・連携研究プロジェクトの策定</li> <li>・プロジェクト参画教員数</li> <li>・関連した外部資金への応募・獲得状況</li> </ul>
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	<p>地域資源を活かした現地調査の実施、ヒアリング先への成果の還元等を行うことができた。今後は、うまく外部資金への応募や、商工会議所等との連携を含めた仕組みづくりが必要となる。</p>
現状説明を踏まえた長所・特色	<p><b>【長所】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域貢献を実感できるような仕組みづくり。</li> <li>・学生が成果を実感できる仕組み。</li> </ul> <p><b>【特色】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種プロジェクトの設定により社会貢献を学生が実感できる仕組みであること。プロジェクト参画企業、団体がプロジェクトに参加する意義があったと実感していただける仕組みづくり。</li> </ul>
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	<p><b>【問題点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクトにおいて、誰にもわかりやすい成果をあげること。プロジェクトを通じた教員と学生のネットワークを活用した水平展開が期待される。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生への動機付け。教員のエフォート管理。</li> </ul>
根拠資料名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究計画書、研究契約書等。</li> </ul>

3. その他に関する総合的事項

①	
目 標	<p>■受験生（学生）確保に向けた取り組み</p> <p>オホーツクキャンパスの地域性及び H30 学科名称変更・H31 カリキュラム変更を踏まえ、多面的評価による高い志や目的意識を持った受験生を確保するために、大学・学部全体による広報・募集活動に加えて、学科独自の取り組みとして以下の広報・募集活動を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学科オリジナルのパンフレット作製</li> <li>・SNS を活用した広報活動</li> <li>・積極的な出張講義の実施</li> <li>・各種入試広報に関するイベントへの参加</li> </ul>
実行サイクル	2 年サイクル（平成 29 年～平成 30 年）
実施 スケジュール	<p>&lt;平成 29 年度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学科長と入試対策実行委員会を中心とした現状分析（～8 月）</li> <li>・活動原案作成→学科内調整→オホーツク入試課と調整（～11 月）</li> <li>・次年度広報・募集活動計画策定、次年度予算申請（12 月）</li> </ul>
目標達成を測 定する指標	<p>&lt;平成 29 年度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現行実施の広報関係企画の評価作成</li> <li>・次年度広報・募集活動計画策定</li> <li>・平成 31 年度入試志願者状況</li> </ul>
自己評価 (☑を記入)	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> 達成した</li> <li><input type="checkbox"/> 一部達成した</li> <li><input type="checkbox"/> 達成できず要継続</li> <li><input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更</li> </ul>
目標に 対する 現状説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出張講義の実施：1/27 松村教授 於 札幌龍谷高等学校。</li> <li>・大学院説明会における在籍している大学院生の出席など。</li> </ul>
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<p>【長所】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・連携先のイベント告知との相互乗り入れが出来る点が長所。</li> </ul> <p>【特色】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学の入試広報以外のチャネルを活用した情報発信。</li> </ul>
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<p>【問題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発信した情報がどのように受け止められているのか不明である。情報の質に関するアセスメントができない。</li> <li>・効果的なチャネルをさらに増やす方策が必要。</li> <li>・受験生漸減を食い止める方策の策定。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・効果の計測が充分でない。</li> </ul>
根拠資料名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専攻オリジナルパンフレット、イベント企画書・実施要項等。</li> </ul>

学部・研究科名 生物産業学研究科  
 学部長・研究科委員長名 塩本 明弘  
 学科名・専攻名 生物産業学専攻

1. 教育に関する総合的事項

①	
目 標	<p>■現行カリキュラムの点検・改正</p> <p>学部及び博士前期課程の改組・改革を踏まえ、現行カリキュラムの問題点等を抽出・把握し、ディプロマポリシー（見直しも想定して）に掲げる人材を輩出するという視点により、地域はもちろんグローバルな視点からも課題を設定して適切なアプローチができる能力を身につけさせることを重視した特色ある大学院専攻（専修別）カリキュラムを策定、平成32年度の学則改正を目指す。</p>
実行サイクル	<p><u>3</u>年サイクル（平成29年～平成31年）</p>
実施 スケジュール	<p>&lt;平成29年度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学院FD委員会による課題設定、スケジュール等調整（7月）</li> <li>・研究科共通科目、教職課程再課程認定への影響等の確認（～9月）</li> <li>・基礎学科の教育プログラムの把握（12月）</li> <li>・現行カリキュラムの点検→問題点等抽出（～3月）</li> </ul>
目標達成を測 定する指標	<p>&lt;平成29年度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラム改正に向けたロードマップ作成</li> <li>・現行カリキュラムの問題点等のリストアップ</li> </ul>
自己評価 (☑を記入)	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 達成した</li> <li><input type="checkbox"/> 一部達成した</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 達成できず要継続</li> <li><input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更</li> </ul>
目標に 対する 現状説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門分野への学識を深めるため各専攻に特化した特論科目があり、それらを統合して博士論文を完成させる特別総合実験・演習科目がある。これらの科目がどのような教育効果を生み、3年間での学位取得とその後の就職に役立っているのかを検証する必要があると考えられる。検証のやり方のたたき台を作成中であり、ロードマップ作成や問題点等の抽出に至っていない。</li> <li>・基礎学科の教育プログラムは把握している。</li> <li>・研究科共通科目、教職課程再課程認定には影響等はない方向で見直しをする。</li> </ul>
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<p>【長所】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年間で博士号を取得し、研究者として独り立ちできる知識や技術を身に付けることができる。</li> </ul> <p>【特色】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オホーツク地域の多種多様な生物資源や自然資源を題材にした学びができる。</li> <li>・多様な専門性を有した指導教授や指導准教授の指導を受けることができる。</li> </ul>
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<p>【問題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オホーツク地域の多種多様な生物資源や自然資源をカリキュラムにどのように反映させるか。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・博士号の取得だけで1人の研究者としてやっていけるのかを判断できるのか。</li> <li>・FD委員会での課題設定を行う。</li> </ul>
根拠資料名	<p>学修のてびき・講義内容&lt;シラバス&gt;</p>

2. 研究に関する総合的事項

①	
目 標	<p>■重点的研究領域の強化</p> <p>専攻の特色や優位性を強化するための重点的研究領域を「自然資源の豊かな地であるオホーツクに根ざしながらも国際的に評価される自然科学と社会科学が融合した研究」に設定し、専修分野の枠を越えた大学院指導教員を主体とした研究組織・研究計画を策定するとともに、総合研究所の研究プロジェクト（学内）または公的・民間等の競争的研究資金（学外）へ応募、採択を目指す。</p>
実行サイクル	_3_年サイクル（平成29年～平成31年）
実施 スケジュール	<p>&lt;平成29年度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専攻の研究分野における強み・弱み等の把握（～8月）</li> <li>・重点的領域研究のテーマ設定（～10月）</li> <li>・学内外のH30公募型研究プロジェクト等のリサーチ、申請等準備（～2月）</li> </ul>
目標達成を測定する指標	<p>&lt;平成29年度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専攻の研究分野における現状分析結果</li> <li>・プロジェクト参画教員・大学院生数</li> <li>・学内外の公募型研究プロジェクト応募に向けたロードマップ作成</li> </ul>
自己評価 (☑を記入)	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 達成した</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した</li> <li><input type="checkbox"/> 達成できず要継続</li> <li><input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更</li> </ul>
目標に対する 現状説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学院指導教授並びに指導准教授は自らの専門性に問われることなく、専攻（専修分野）間を超えて様々な研究を実施し、大学院生も加わっている。</li> <li>・総合研究所の研究プロジェクトに採択され、当研究科の大学院指導教授並びに指導准教授が研究代表者となっている。</li> <li>・大学院指導教授並びに指導准教授は科研費を始め、様々な公的・民間等の競争的資金に応募し、採択もされている。</li> <li>・総合研究所による博士後期課程の学生を対象とした競争的資金制度があり、当研究科の学生は毎年、複数人が採択されている。</li> </ul>
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<p>【長所】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な専門性を有した教員から成っているため、学際的で新規性の高い研究プロジェクトを立てやすい。</li> <li>・学際的で新規性も高いことから、競争的資金も採択されやすい。</li> </ul> <p>【特色】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な能力を有した若い研究者を育てることができる。</li> </ul>
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<p>【問題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学際的で新規性は高いため、具体的な成果がすぐには得られない場合がある。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学際的で新規性の高い研究テーマは競争的資金の獲得につながっているのか。</li> </ul>
根拠資料名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学院事業案内</li> <li>・東京農業大学総合研究所紀要</li> <li>・東京農業大学大学院重点化研究プロジェクト研究成果報告</li> <li>・指導教授並びに指導准教授のホームページ</li> </ul>

3. その他に関する総合的事項

①	
目 標	<p>■優秀かつ多様な学生確保に向けた取り組み</p> <p>専攻のアドミッションポリシーに基づき、優秀な学部生及び社会人や外国人等多様な人材を確保（定員充足）するために、研究科で実施している合同入試説明会・相談会等に加え、専攻独自の取り組みとして以下の広報・募集活動を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・博士後期課程の研究テーマだけではなく、公表した研究論文、学会での発表や受賞歴などを広く周知する。</li> <li>・英文での募集要項などの充実を図る。</li> </ul>
実行サイクル	2 年サイクル（平成29年～平成30年）
実施スケジュール	<p>&lt;平成29年度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主事WGを主体とした課題設定、スケジュール等調整（～7月）</li> <li>・これまでの広報・募集活動（入試説明会、進学相談会、フレッシュマンセミナー）の検証（～10月）</li> <li>・次年度広報・募集活動計画の立案（～3月）</li> </ul>
目標達成を測定する指標	<p>&lt;平成29年度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現行実施の広報関係企画の評価結果</li> <li>・次年度広報・募集活動計画策定</li> <li>・平成31年度入試志願者状況（人数、レベル、社会人数等）</li> </ul>
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1期入試のためには6月に博士前期課程と同時に入試説明会を実施し、2期入試のためには11月のポスター発表会に入試相談会を実施している。</li> <li>・ポスターによる研究発表や博士論文の公開発表会を実施することにより、博士後期課程の学生の研究テーマや成果を多くの学生に周知している。</li> <li>・「学びて後足らざるを知る」奨学金など、経済的支援の充実について説明している。</li> <li>・秋入学を実施し、留学生の確保に努めている。</li> <li>・学会等で学生が受賞した場合、大学のホームページに掲載している。</li> </ul>
現状説明を踏まえた長所・特色	<p>【長所】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポスター発表会では、博士後期課程の学生と直接話ができるため研究内容が伝わりやすい。</li> </ul> <p>【特色】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入試説明会と入試相談会では、各専攻から教員（専攻主事）が相談者に対して説明している。</li> </ul>
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	<p>【問題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・奨学金を充実させてきたが、博士後期課程に進学する学生が増えない。</li> <li>・博士後期課程の学生の充足を目指すこと。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・博士後期課程の学生へのキャリア支援が必要と思われる。</li> </ul>
根拠資料名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学院1期入試説明会ポスター。</li> <li>・大学院研究発表会・進学相談会ポスター</li> <li>・英語版大学院募集要項</li> </ul>